

多事争論会 意見交換発言内容 (2026.2.11)

発言内容		回答	
1番	1	吹奏楽は楽器が非常に高額で、傷んでいる楽器を各家庭がある程度自分たちの責任で修繕している。 市として、市民から使わなくなった楽器を一元的に集めて修繕をし、地域展開した部活動、または市民団体へ譲渡するなどの柔軟な対応をお願いしたい。	(市長)公共財という考え方に立って、松本市全体の中学生在がクラブに移行しても、一定以上の楽器の演奏が維持できるような状況を保つということは大事だと思う。 一方で、個人が所有する使われなくなった楽器の収集のコーディネイト業務を市が音頭をとって教育委員会、市民の皆さんも巻き込んで行うという視点も非常に重要であり、貴重な提案として受け止めた。 (教育長)教育委員会でも子どもたちが困らないようにするにはどうしたらいいかを考えている。楽都まつもとがもっと発展するように教育委員会もアシストをできるようにしたい。
	2	熱心に指導している先生への支援・補助を手厚くしてほしい。	(市長)政府の来年度当初予算案の中にもようやく部活動の地域展開について補助制度の予算枠が盛り込まれた。クラブの運営を国・県・市で補助をするもので、指導者への手当的なもの、運営費について保護者の皆さんの負担の増大を抑えるという形の補助の枠組み。これをベースに、指導者に積極的に続けていただけるような制度として織り込んで行けるかが、我々が考えなければいけない重要なポイントだ。
2番	1	学校関連ではなく、一般団体として「まつチャレ」のガイドラインから外れた団体で活動している。学校とのつながりもほとんどないので、楽器は2割ほどの子どもさんは自身で購入している。何とか楽器を集めて活動しているが、楽器の不足は常に問題としてある。市で楽器を集めて譲渡や払い下げ等を検討してほしいし、その場合一般団体の受け皿まで手を伸ばしてほしい。	(市長)楽器については、これからどのようなアプローチをして大勢の皆さんから集められるか、それによってどのように幅広い方たちに提供できるかということを検討していきたい。
3番	1	自身の子どもが色々なスポーツ教室、クラブに通っていたが、長続きしなかった。その理由は、時間やお金ということより、友達関係だった。いじめや仲間外れなど心の問題が起こったときにどのような対応をされるのか心配。	(市長)指導者がどのような方であるかということは、今回の部活動の地域展開の中でも心配される面でもある。ただ、学校の先生だけが素晴らしくすべての事を兼ね備えていて、先生以外の大人がそうではないということでは必ずしもないと思っている。だからこそ、これから部活動の地域展開の裾野が広がっていくときに、そうしたことへの目配りを私たちが旗振りをしながら、社会全体でしていくということで、この問題に向き合っていく。
4番	1	中学校の卓球部の外部指導者をしている。地域クラブを立ち上げ、地域展開に向けて準備をしているが、活動場所の確保に苦慮している。やる気を持って、何とか地域で実現しようと思っているが、市の決めたルールに全てを阻害されてしまっていて、なかなか着手できない。市は全ての現状を把握できていないのではないか。現場で困っている声などをもう少し調査していただきたい。	(市長)この1年まずベースとなる問題点を整理し、原則的な考え方やルールを整理してきた。そして今度は各論として、学校施設や指導者の問題などの課題を一つ一つつぶしていくという局面に入ったと思っている。クラブの運営や指導を担っていただく方々とコミュニケーションをとり、どうしたら問題解決していけるかを進めていきたい。 また、学校側と私たちが同じ認識を共有できているかは確認すべきこととして残っていると思う。学校側に強く関与してもらおう部分があるということは改めて認識のレベルを合わせる必要があると考える。特に施設面の利用のあり方については、しっかり受け止めていきたいと思っている。 もう一点、部活の問題だけではないが、地域において学校の施設が担う役割がすでに広がっていて、これからも広げていかなければいけないと思っている。学校が子どもたちの教育の場だけではなく、防災の拠点や、地域の皆さんがあらゆる活動を学校の施設を自由に使えるような状況にしていく。多機能化することによって、色々な活動がしやすくなることを、今回の部活の地域展開で意識していきたい。

5番	1	<p>市の説明の中で、国のガイドラインで地域移行が地域展開に変わったと聞いて、大きな違いだと思った。今まで、中学校の部活はなくなる、フェードアウトしていく、そして民間に全てが移っていくというイメージで捉えていたが、展開になると、学校の活動は残った状態で広がっていくと受け取れた。市としてどのように取り組んで行くのか確認したい。</p> <p>また、私の考えとしては、中学校の思いを持った先生が子どもの指導にあたれなくなってしまうという状態は避けていただきたいと考えていて、先生が指導するという機会・場面を可能な限り残してほしい。</p>	<p>(市長)我々としては地域移行という言葉にあまりこだわらずに、展開側の意味として行ってきただけだった。一方で、学校が関わる部分がどの程度残るかは、今日いくつか整理をさせていただいた。例えば吹奏楽は相当残さないと成り立たない。スポーツ競技によってはそもそも学校に受け皿がない部分も多くて、地域移行という形で、新しい受け皿を作らなくてはいけないという気持ちの焦りもあり、皆さんには学校側の関りが限りなくなくなり、学校以外でやるというイメージに写った部分はあると思う。ある段階からそれを是正しないといけないと反省をしていた。</p> <p>今回、国も展開という言葉使いになり、我々も学校の先生に全てを依存してきた昭和の時代の中学部活動は改革をして、学校の単位は残しながら、より受け皿を広く社会全体・地域全体で子どもたちのスポーツ文化活動を支えていける体制づくり、これを中学校部活動の地域展開として位置づけることが必要だと思っている。</p>
	2	<p>説明資料5-1の保護者のアンケート結果について、月謝が必要となる場合の許容できる金額が平均で5千円くらいと示されているが、では5千円まではOKかというところではないと思う。平均が5千円だとしても、2千円のところに分布が集まっていたとしたら、多くの方が参加できない状態になってしまう。そのあたりのフォローをどう考えているか。</p>	<p>(市長)小学校段階ではいわゆる部活はないが、各家庭が負担をして習い事をさせている。その延長上で、中学校でどのくらいの金額が許容範囲かについて、一つの目安として算出された平均値という以上でも以下でもないもの。</p> <p>この金額を個人に補填するという考え方は、国もとっていないし、我々もそれは難しいと思っている。できるだけクラブの月謝にあたる部分が高くないように、活動団体に補助をするという間接的なアプローチで費用負担を抑えるという考え方。</p> <p>また、市は18才までの子どもの医療費をゼロにしたり、市が負担をして給食費の無償化をするなど、トータルとして、子育てにかかる家計の負担を抑えていくということでご理解いただきたい。</p>
	3	<p>説明資料5-1の先生のアンケート結果について、地域クラブ活動の指導者、大会運営への協力の可否は、今までと前提が同じならこういう低い結果になると思うが、例えば土日部活に参加して日当が得られるなど条件が変わればやってもいいということがあると思う。どのようにアンケートを取ったのか知りたい。</p> <p>今まで先生はかなり大きな代償を払っていただいていると思う。それに合わせた社会的な対価を支払うべきなのではないか。</p>	<p>(市長)教員に今まで無償ボランティアでお願いしてきた指導者については、クラブの活動の指導者という形になれば有償でということになる。</p> <p>アンケートは現状の条件に基づく結果で、これが令和の部活改革、市の職員の柔軟な働き方を進めて行く中で、「だったら自分もやってみよう」という先生を増やしていかなければいけないと思う。そういう人を増やしていかなければ大きな目的である社会全体で子どもたちを支えるということに繋がらないと考える。</p> <p>アンケートの方はご指摘のような少し一面的な取り方になっていると思うが、目指すところは、部活動改革を進めて、「こういう環境であれば、参加していける」と思う人たちを増やしていくことでご理解いただきたい。</p>
6番	1	<p>ソフトテニス協会が役員をしている。地域クラブの地域展開として「まつチャレ」登録の準備をしている。その中で、運営の予算案を作成しているが、限られた予算の中で問題は、テニスコートの整備費。中学校のテニスコートは市の施設になると思うので、今後の整備方針を教えてください。</p>	<p>(コーディネーター)中学校のテニスコートは多くのところがテニス部の子どもたちが管理している。本来は年に何回か土を入れたり整備が必要だと思うが、とてもお金がかかる。</p> <p>今後はテニスコートも地域クラブに開放していきたいとは考えているが、全てを開放するのは難しいため整理をしていきたい。</p> <p>(市長)部活動を、学校・先生が全てを引き受ける形はなくなるが、テニスに限らず、逆に中学校の学校施設・グラウンド・体育館の使用頻度や重要性は高まって来ると思う。本当に必要な施設であれば、そこに投資をする必要があるのかを、クラブの設置数や子どもがどの種目を求めるか希望をできるだけ把握し、判断していきたい。</p>

7番	1	<p>現在中学1年生の新入部員でこれからスタメンになれるという状況で部活動が地域展開となり、自分たちは来年の夏に今の2年生と同時に退部する形となる。もっとバレーをやりたいという思いがあるのと、今のメンバーで部活を続けられなくなるのが本当に悲しい。</p> <p>来年は近隣中学校と合同クラブで活動することになっているが、人間関係の再構築や、お金の問題で、今のメンバー全員が継続することは難しいと思っている。また、合同クラブになると試合で勝つことが優先されるのではないかと不安に感じている。自分たちが部活に入ったのは楽しそうだからというのが1番の理由だったため、目的が変わってしまったら自分たちのやりたいことは異なってしまうのではないかと考えている。</p> <p>このままこのメンバーで部活を続けたいということ、部活の延長上で楽しくバレーをやりたいと思っているということを伝えたい。</p>	<p>(市長)色々なルールを整理していく中で、個別の話に目を向けていかなければいけないと思っている。合同クラブがどのようなクラブになろうとしているのか教育委員会に調べてもらい、皆さんに出来るだけ早く伝えたい。それで、前向きになれるのか、あるいはもう少しこうしてほしいという思いを伝えてもらうキャッチボールをもう少ししてもらいたい。さらに希望を言えば、自分たちが新しいクラブの主人公になる、自分たちが本来こうあった方がいいと思うクラブを自分たちで作っていく、そういう気持ちになってもらえたらと思う。</p>
8番	1	<p>地域クラブは他校の学生と交流、対戦できることがいいことだと思う。</p> <p>その一方で、それぞれの学校の文化の特徴や、それぞれの学校の持っている価値というものを認識し、尊重することも大切だと思う。</p> <p>また地域クラブでの活動の結果を学校に報告する機会を持つことも必要ではないか。</p>	<p>(教育長)学校の部活動が学校教育に果たしてきた役割はとても大きいものがあると感じる。チームワークを養ったり、自分たちで進んで取り組めるようになることがある。その良さをぜひ地域クラブにも引き継いでもらいたいので、展開という言葉が使われている。さらに地域クラブと学校との連携を密にすることも必要になると思うので、地域クラブや部活動でやっていることを学校に報告し、学校にも取り入れていけるかをこれから研究していかなければいけないと思っている。</p>
9番	1	<p>地域のプログラミングクラブを松本大学と共同で活動している。予算の話になるが、松本市役所の大手事務所に市民活動サポートセンターがあり、色々な活動の支援や助成金のお話を聞ける。地域展開で社会活動・市民活動ということになれば、もっとサポートセンターを活用したらいいと思う。</p>	<p>(市長)サポートセンターでの色々な市民活動団体への助成を広く紹介することで、今回の部活動の枠組みで考えている補助の話と組み合わせでできる余地があるのではないかと考える。</p>